

## オンライン教育への取り組み

徳島県立  
ひのみね支援学校

## ICTの活用で新たな出会いやふれあいが増加

タブレット端末を利用した遠隔学習や遠隔社会科見学などを積極的にを行い、児童生徒一人一人の障がいの特性や教育的ニーズに応じた実践的な取り組みをしています。例えば「Zoom」を利用したリモートでの就業体験(高等部)の一環として、5都県(東京都・福島県・埼玉県・長野県・愛知県)の特別支援学校の生徒とWeb会議を行ったり、徳島県庁の社会科見学や交流及び共同学習

(中学部)などを実施したりしました。生徒からは「今まで出会えなかった人に出会えたり、行けなかった場所に行くことができてうれしうれしい」等の声が挙がっています。また、新たな試みとして「Zoom」を利用した文化祭や体育祭の代替大会も開催。式典ではGIGAスクールサポーターの力を借りて、感染症対策を行いつつ、よりよい映像や音声での配信を実現することができ好評でした。



写真は「Zoom」を使い、リモートで行った上勝中学校との交流及び共同学習の様子。

## 保護者のみなさまへ

GIGAスクール構想は、1人1台のタブレット端末などのICTを最大限に活用し、様々な人や社会、知識や経験とつながりながらすべての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現をめざしています。

ICTを有効に活用しながら学んでいくためには、ご家庭のサポートが不可欠です。タブレット端末は、卒業時や転退学時には返却していただく必要があります。お子様が大切に使えるよう、ご家庭でも適宜ご指導いただくとともに、家庭での通信環境の確保についてもご理解とご協力をお願いいたします。

貸与する端末に限らず、スマートフォンをはじめとしたインターネットの適正な利用についても、学校において情報モラル教育に取り組んでまいりますので、ご家庭におきましてもご指導とご協力をお願いいたします。

## 「県立学校・電子図書館」の利用について



県立学校の児童生徒等を対象に、個人のスマートフォンやパソコンから自由に「県立図書館の電子書籍」の閲覧ができる「県立学校・電子図書館」を期間限定で開設しています。日常の読書活動や総合的な学習(探究)の時間等の「調べ学習」にも有効です。

- **対象** 県立学校の児童生徒等・教員
- **期間** 令和2年7月27日(月)から令和4年3月31日(木)まで
- **利用方法** 徳島県立図書館から提供された「電子書籍閲覧サービス」利用のための個人IDとパスワードを使い、県立図書館ホームページからログイン。学校や個人の端末で、自由に「電子書籍」を閲覧することができます。令和2年12月に中高生向けの電子書籍コンテンツ(作品)が増えましたので、ぜひご利用ください。

「県立学校・電子図書館」はこちら  
[https://library.bunmori.tokushima.jp/digital/densilib/lib\\_KinoDen.php](https://library.bunmori.tokushima.jp/digital/densilib/lib_KinoDen.php)



## 学んでみましょう!...これって何? 用語解説

- **[ICT]**  
Information and Communication Technology(情報通信技術)の略。IT(Information Technology: 情報技術)とほぼ同義だが、前者の方が情報を伝達することを重視している。
- **[Society5.0](ソサエティ5.0)**  
狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな経済社会のことで、サイバー空間とフィジカル空間(現実社会)が高度に融合した「超スマート社会」の実現により、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。

- **[EdTech](エドテック)**  
教育(Education)と技術(Technology)を組み合わせた造語。教育の分野に先端技術を取入れて活用すること。
- **[AI](エーアイ)**  
Artificial Intelligenceの略で、人工知能を表す。人間が持っている認識や推論などの能力をコンピュータでも可能にするための技術のこと。
- **[ビッグデータ]**  
文字通り、一般的なデータ量をはるかに超える「大規模なデータ」のことで、収集・蓄積・処理することにより、新たな価値を見いだすことが期待できる。教育現場では、子どもの学力データや学習履歴データなどを蓄積して多面的な分析を行うことにより、個別に最適な指導を見いだしたり、全体の学力向上へつなげたりすることができると期待されている。

「徳島県GIGAスクール構想」についてはこちら

専用ホームページ <https://gigaschool.tokushima-ec.ed.jp/>  
お問合せ: 徳島県立総合教育センター 電話: 088-672-5000



教育  
通信

# ふれあいひろば 臨時号

編集: 徳島県教育委員会教育政策課  
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地  
TEL:088-621-3159 FAX:088-621-2879

特集

## すべての子ども一人一人に、最もふさわしい教育を 2021年度「徳島県GIGAスクール構想」スタート!



写真はイメージです。© visual supple/amanaimages

## 令和時代の新しい教育スタイルへ 「徳島県GIGAスクール構想」

今やスマートフォンは1人1台の時代に。仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場面でICTは欠かせないものとなっています。それに拍車をかけるように、2020年は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、リモートワークや在宅ワークの人も増え、ICTの社会全体への浸透が急速に進んだ一年となりました。

学校教育では、2020年度から小学校を皮切りに順次実施されている学習指導要領において、「情報活用能力の育成」や「ICTを活用した学習活動の充実」が明記されるとともに、これを実現するために必要な「児童生徒の1人1台端末」をはじめとするICT環境の整備を目的として、全国知事会などの強い働きかけにより、国から「GIGAスクール構想」が打ち出されました。

これを受け、徳島県では、全国屈指の光ブロードバンド環境を活用し、児童生徒1人1台端末と、高速大容量の校内通信ネットワーク、各普通教室へのWi-Fi環境などを一体的に整備しています。これにより、児童生徒一人一人に応じた「個別最適化された学び」を実現するとともに、Society5.0時代に活躍する「未知を切り拓く人材の育成」を全国に先駆けて実践します。

### Q. 「GIGAスクール構想」って?

**A.** 児童生徒1人1台端末と、高速大容量の校内通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたち一人一人に個別最適化された、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境の実現をめざす構想。  
要するに、デジタル革新が進むSociety5.0時代に生きる子どもたちが、鉛筆やノートと同じように「自分専用のパソコンやタブレット端末」を持ち、授業で活用することが、当たり前となる環境を整えていくということです。

GIGAは、Global and Innovation Gateway for Allの略。

### Q. どんな児童生徒を対象にしているの?

**A.** 国のGIGAスクール構想の対象は、国公立小中学校が中心です。加えて徳島県では、国の構想では対象外となっている県立高校、特別支援学校高等部、私立高校の生徒も対象とし、1人1台のタブレット端末を整備・貸与します。これにより、小中高一貫した新たなオンライン教育環境を全体的に構築することとしています。

### Q. どのように活用するの?

- A.** 1人1台のパソコンやタブレット端末を使用して、
- インターネットを活用した調べ学習・交流学習
  - 授業支援ソフトを活用した思考の可視化や意見の共有などの協働学習
  - AI・ビッグデータを活用した、一人一人の理解度・教育ニーズに応じた学校や家庭での個別学習
  - Web会議や学習動画などを活用したオンライン学習
  - 災害時や感染症発生時における臨時休業などの際にインターネットを活用したオンラインでの在宅学習
- などの新たな学びが実現できます。





## 上板町立高志小学校

### 学校でも家庭でも同じアプリを使うことで、学習そのものに集中できる

授業支援アプリ「ロイノート・スクール」を用いた授業づくりを行うことで、それぞれの意見や回答をその場で共有することができるため、児童からは「自分の意見を比較しやすくなった」「今までは手を挙げて意見を言うことが恥ずかしかったが、積極的に発言できるようになった」「皆が平等に意見を出し合えるので、積極的に授業に参加できるようになった」などの感想が寄せられています。週末や冬

休みは、タブレット端末を自宅に持ち帰ってドリル学習にも活用。学校でも家庭でも、同じ授業支援アプリを使用することで、使い方を覚える時間が短縮され、学習そのものに集中できるよう、工夫しています。適切にタブレット端末を使えるよう、「どんな時に使ってはいけないのか」に着目しながら新たなツールを使うためのルールづくりにも取り組んでいます。



初めてタブレットを触ったときは「緊張する」と言っていた子ども、動画や写真撮影など授業に応じて使いこなしています。週末はタブレットを持ち帰って使うことも。

## 阿南市立桑野小学校

### ルールを守りながら、学ぶ楽しさを引き出す

紙に書いているような感覚で編集でき、リアルタイムでの画面共有が可能な授業支援アプリ「MetaMoJi ClassRoom」を使用することで、児童からは「算数の図形問題が理解しやすくなった」「宿題でドリル問題を解くのが楽しくなった」といった声が寄せられています。教員も「今まではノートを集めない確認できなかったが、アプリ上の履歴や共有機能を利用することで、効率的に確認で

きるようになった」と手ごたえを感じており、教員間でもレベルアップを図っています。タブレット端末は持ち帰り、家庭学習にも活用しており、その際には「他の人にパスワードを教えない」といった桑野小学校が独自で定めた活用ルールに従った利用を指導。冬休みはタブレット端末を使って、写真付きで日記をつけるといった新しい課題にも取り組みました。



算数の授業では、「MetaMoJi ClassRoom」を使って台形の面積の求め方について自他の考えを共有するなどの学習活動に取り組んでいます。

## 美馬市立穴吹中学校

### 教科の枠を超えたノウハウの共有が、生徒の応用力UPに

美馬市立木屋平中学校と一緒に開催した英語の研究授業や、美馬地区内の中学校が一同に参加する音楽交流会が「Zoom」を使うことで実現。授業支援アプリも学校生活に積極的に取り入れており、朝の学活前に一日の連絡事項を伝える際もタブレット端末を使用。授業の振り返りにも役立っており、「自分が間違えた問題がデータに残っているので復習しやすい」「画面上で勉強すると気が散りにく

く、集中力が高まる」といった感想が寄せられています。多機能なゆえに、使いこなすまでに時間がかかりそうなタブレット端末ですが、「体育の授業で使った機能を英語の授業でも活用してみよう」と、生徒自身が創意工夫しながら応用力を高めており、それが自信とやる気につながっています。そうした成長をサポートするためにも、授業で行ったことは些細なことでも必ず教員間で共有するようにしています。



理科の授業ではタブレットを使って実験結果をまとめるなど、それぞれの教科に応じた活用を行っています。

## すべての子ども一人一人に、最もふさわしい教育を

### 2021年度「徳島県GIGAスクール構想」スタート!

# オンライン教育への取り組み

ICTやEdTech(エドテック)の活用を推進し、オンライン教育を含む新しい教育方法等に  
取り組むモデル校8校(市町村立5校、県立学校3校)の様子を紹介します。



写真はイメージです。© visual supple/amanaimages

## 三好市立 東谷小学校・中学校

### 小中一体の強みを生かし、自律的ICT活用をめざす

小中一体型校舎で、教員ともコミュニケーションを図りやすい環境にある半面、中山間地域にあり、他の地域や集落と距離があるため、交流範囲が狭いという問題点をICTで補い、広い世界とつながることが期待されています。1人1台タブレット端末を使用し、例えば、小中同じ「音楽」をテーマに、小学校ではカメラ機能を使って鍵盤ハーモニカを演奏する様子を友達同士で撮影したり、中学校

では歌を歌う姿や英文音読を動画で撮影したりするといった課題を通して、タブレット端末に親しみながら学習意欲を高めています。使用方法については禁止事項だけを設けるのではなく、「自分と友だちと端末を大切に」といった原則を徹底し、自分たちでルールづくりをするように指導。児童生徒からは「インターネットで広い世界とつながることができてうれしい」という声が挙がっています。



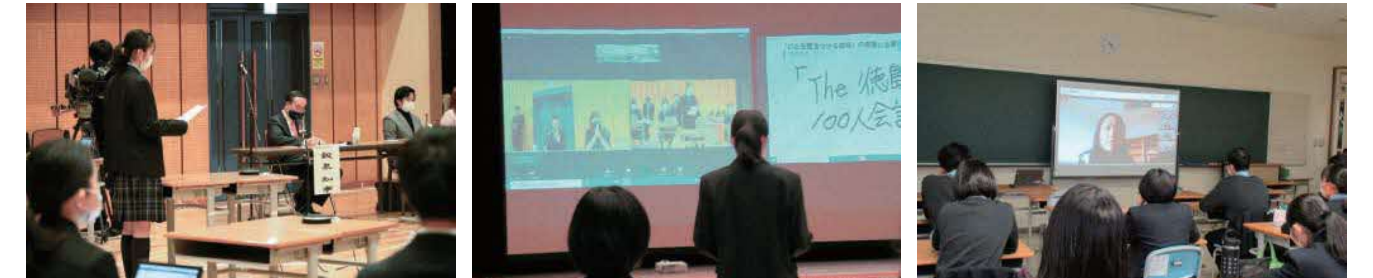
「Zoom」を活用したオンライン学習では、大型モニターに子どもたちの様子やタブレットの画面を映し出し、双方向によるコミュニケーションを行っています。

## 徳島県立城東高等学校

### 徳島から世界へ羽ばたく「グローバル人材」の育成をめざして

「総合的な探究の時間」では社会課題から研究テーマを見つけ、適宜ICTを活用して調査・研究を行っています。また、海部高校とつぎ高校とを「Zoom」で結び、飯泉知事とのオンライン対話集会「新未来セッションNEO・2020」を開催するとともに、「English Day」でのカナダ在住者との交流会、姉妹校のフランス サン・ジョセフ校やインドネシアのASEAN日本政府代表部との国際交流も

「Zoom」を利用して実施。生徒からは「外国の授業がどのように行われているのかが分かり、考え方の違いや共通点も知ることができた。ICTを活用することで世界が近くなり、国際交流も気軽にできるようになった」といった感想が寄せられています。ICTの活用力を高めて、より主体的、対話的で深い学びが実現することで、城東高校がめざす「グローバル人材」の育成に役立っています。



知事とのオンライン対話集会のほか、台湾のIT大臣オーディー・タン氏と日本の高校生が「近未来の教育について考える」シンポジウムの校内視聴会など多彩な取り組みが行われています。

## 徳島県立つぎ高等学校

### 専門学科に必要な資質能力の育成に役立てたい

工業科と商業科を併設した専門高校で、これまでも県内で先駆けて整備された電子黒板や授業支援アプリ「MetaMoJi ClassRoom」などのICTを活用した教育活動に取り組んできました。今年度からは、EdTechのモデル事業でタブレット端末や教育プラットフォーム「Classi」が導入され、教員・生徒間の双方向の連絡ツールとしての活用を皮切りに、アンケート機能による生活状況調査、冬休みや

週末の課題・解答の配信、確認テストの実施など、どのようにすれば生徒の学力を向上させることができるか、様々な教科や場面での活用に取り組んでいます。現在、生徒は共有のタブレット端末を使用していますが、来年度からは1人1台のタブレット端末が貸与されることで、より自主的に学習に取り組むことができ、基礎学力の向上と専門学科に必要な資質能力の育成に役立つと期待されています。



国語や数学など教科を問わず、電子黒板とタブレットを使用した授業が行われています。また英語4技能学習ツール「トレバ」を利用したeラーニングも行っています。